

クラブ大会試合結果一覧

女子バスケットボール部

- 11月 第78回全国高等学校バスケットボール選手権大会愛知県大会
- 11月 第12回3x3 U18日本選手権 中日本エリア大会
- 12月 第12回3X3U18全日本選手権
- 1月 令和7年度愛知県高等学校新人体育大会西三河支部予選会
- 1月 令和7年度愛知県高等学校新人体育大会

- 4位
- 4位
- ベスト8
- 優勝
- 4位

男子バスケットボール部

- 11月 第12回3x3 U18 日本選手権 中日本エリア大会 Pool B
- 2月 愛知県高等学校新人体育大会

- 2位
- ベスト16

陸上競技部

- 10月 第28回東海高等学校新人陸上競技選手権大会(静岡県)
 - 山口隼士(大高) 砲丸投
 - 石川大介(平坂) 走高跳
 - 権田颯志(翔南) 110mJH
 - 内藤樹(扇台) 400m
 - 杉浦丞真(西尾東部) やり投
 - 桑野智洋(武豊) 砲丸投
 - 中野慶太郎(有松) 走高跳
 - 杉浦崇義(六ツ美) 400mH
 - 野田雄斗(宮田) 三段跳
 - 片桐舞(大高) 砲丸投
 - 片桐舞(大高) 円盤投
 - 夏目純佳(矢作北) 走高跳
 - 夏目純佳(矢作北) 三段跳
 - 八木花絵(大高) 砲丸投
 - 八木花絵(大高) ハンマー投
 - 村田真優(前林) 400mH
 - 近藤羽留(瀧ノ水) 砲丸投
 - 男子 4x400mR
 - 大嶋友博(大府)・内藤樹(扇台)・佐藤大覚(桜井)・杉浦崇義(六ツ美)
 - 女子 4x100mR
 - 奥山莉奈(東山)・池上陽菜子(朝日丘)・矢崎紗由菜(桜山)・樋口紗都(浄水)
 - 女子 4x400mR
 - 奥山莉奈(東山)・矢崎紗由菜(桜山)・鈴木唯日(東山)・樋口紗都(浄水)
- 11月 令和7年度愛知県高等学校駅伝競走大会
 - 大畑夢依里(朝日)・渡邊ひな(一宮大和)・城川美佳(高浜)
 - 石田恵梨果(知立南)・加藤希世良(六ツ美北)
- 11月 第36回東海高等学校駅伝競走大会(三重県)
 - 大畑夢依里(朝日)・渡邊ひな(一宮大和)・犬塚美桜(矢作北)・加藤希世良(六ツ美北)・城川美佳(高浜)

- 4位
- 2位
- 1位
- 8位
- 4位
- 8位
- 12位
- 7位
- 15位
- 2位
- 4位
- 2位
- 2位
- 12位
- 8位
- 6位
- 決勝 6位

決勝進出

決勝 3位

5位入賞

12位

卓球部

- 11月 愛知県高等学校新人体育大会卓球競技
 - 2年 矢野沙樹(前林)・新美菜(竜神)・伊藤瑠南(城北)・大谷桃香(西端)
 - 1年 鈴木果穂(末野原)・三井桃香(明祥)・金子由愛(幸田南部)・中村唯華(矢作北)
- 12月 東海高等学校新人体育大会卓球競技(静岡県)
 - 2年 矢野沙樹(前林)・新美菜(竜神)・伊藤瑠南(城北)・大谷桃香(西端)
 - 1年 鈴木果穂(末野原)・三井桃香(明祥)・金子由愛(幸田南部)
- 12月 全国高等学校選抜卓球大会愛知県予選 女子シングルの部
 - 伊藤瑠南(城北)
- 1月 令和7年度西三河地区高等学校学年別卓球大会
 - 2年 矢野沙樹(前林)・新美菜(竜神)・伊藤瑠南(城北)・大谷桃香(西端)
 - 1年 鈴木果穂(末野原)・三井桃香(明祥)・金子由愛(幸田南部)
 - 2年 新美菜(竜神)
 - 1年 鈴木果穂(末野原)・三井桃香(明祥)・金子由愛(幸田南部)

4位

ベスト8

予選通過・全国大会出場

団体ベスト8

優勝
優勝
3位

ハンドボール部

- 11月 愛知県高等学校新人体育大会ハンドボール競技西三河予選会
- 12月 愛知県高等学校新人体育大会ハンドボール競技愛知県大会
- 2月 全三河高等学校ハンドボール1年生大会

- 準優勝
- ベスト8
- 予定

バレーボール部

- 10月 第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会西三河支部予選会
- 11月 第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会 愛知県予選会
- 12月 令和7年度西三河高等学校バレーボール選手権大会
- 1月 令和7年度愛知県高等学校新人体育大会西三河支部予選会
- 1月 令和7年度 全三河高等学校ハンドボール1年生大会
- 2月 令和7年度愛知県高等学校新人体育大会
- 2月 第31回全国私立学校男女バレーボール選手権大会東海予選会

- 準優勝
- 出場
- 第3位
- 準優勝
- Yトーナメント優勝
- ベスト16
- 出場予定

女子硬式テニス部

- 10月 新人戦愛知県大会
- 11月 テニス西三河選手権大会(団体の部)

- 出場
- 4位

バドミントン部

- 11月 第78回 中部日本バドミントン選手権大会(新潟県)
 - 女子ダブルス
 - 2年 藤井詩(大高)・2年 鈴木こころ(大府南)
 - 女子シングルス
 - 2年 藤井詩(大高)

- 出場
- 出場

女子サッカー部

- 10月 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権愛知県大会
- 11月 U-18女子サッカーリーグ2025愛知 2部
- 1月 令和7年度愛知県新人体育大会

- 第3位
- 優勝
来年度から1部昇格
- ベスト8

ダンス部

- 1月 USA Regionals 2026 愛知大会
 - Hip-Hop部門 AGDC・Vert

全国大会進出

アーチェリー部

- 10月 秋季アーチェリー大会
 - 女子団体の部
 - 大見柚奏(矢作)・河田野杏(名南)・高井爽渚(竜北)
 - 新人女子個人の部
 - 杉浦美歩(安祥)
 - 新人女子団体の部
 - 杉浦美歩(安祥)・朝岡優(知立南)・原田茉那(碧南南)
 - 新人男子個人の部
 - 小嶋竜生(桜井)
- 11月 愛知県高等学校新人体育大会
 - 女子団体の部
 - 河田野杏(名南)・高井爽渚(竜北)・牧野伶南(吉良)
 - 女子個人の部
 - 河田野杏(名南)
 - 女子個人の部
 - 高井爽渚(竜北)
- 1月 第17回東海高等学校インドア・アーチェリー大会 兼 Winter Cup2026 第18回 高等学校ネットワークアーチェリーインドア大会
 - 山田陽彩(東山)・佐野公香(刈谷南)・牧野伶南(吉良)・河田野杏(名南)・大見柚奏(矢作)・高井爽渚(竜北)

- 総合2位
- 5位
- 総合2位
- 6位
- 優勝
- 2位
全国大会出場
- 6位
- 出場

吹奏楽部

- 11月 第38回全日本マーチングコンテスト(大阪府)
- 1月 愛知県アンサンブルコンテスト西三河南地区大会
 - 打楽器七重奏・金管八重奏・木管八重奏
- 1月 愛知県アンサンブルコンテスト西三河南地区大会
 - フルート四重奏・クラリネット八重奏・サクソフォン六重奏
- 1月 愛知県アンサンブルコンテスト
 - 打楽器七重奏
- 2月 中部日本個人重奏コンテスト西三河南支部大会
 - 重奏の部
 - 木管八重奏・金管八重奏・打楽器五重奏
 - バリチューバ四重奏
 - 個人の部
 - 1年 杉山 力孔(安城西) チューバ独奏
 - 2年 鶴田 悠斗(末野原) チューバ独奏
 - 1年 糸長 佑月(朝日) 弦バス独奏
- 2月 東海アンサンブルコンテスト(長野県)
 - 打楽器七重奏・金管八重奏
- 3月 中部日本個人重奏コンテスト 愛知県大会
 - 重奏の部
 - 木管八重奏・金管八重奏・打楽器五重奏

- 銅賞
- 金賞・代表権獲得
金賞
- 金賞・愛知県教育委員会賞(1位)・東海代表
金賞・代表
金賞
- 金賞・代表
金賞
- 銀賞
銀賞
銀賞
- 出場予定
- 出場予定

弦楽部

- 3月 第4回中高生のためのコントラバス・ソロコンテスト全国大会(東京)
 - 3年 音名帆乃香(竜北)
- 7月 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭2025(香川県)
 - 愛知県代表メンバーとして12名
- 11月 第14回日本学校合奏コンクール全国大会(福島県)
 - アンサンブルコンテスト
- 11月 第14回日本学校合奏コンクール全国大会(千葉県)
 - グランドコンテスト(合奏)

- 金賞
- 出場
- 最優秀賞
- 最優秀賞・奨励賞

箏曲部

- 1月 愛知県高文連 日本音楽部門第40回発表会(県大会)

奨励賞

演劇部

- 12月 中部日本高等学校演劇連盟愛知県支部西三河第2地区合同発表会

優秀賞

美術部

- 12月 第40回高文連美術・工芸部門「西三河」支部展

出品



卒業生への
メッセージ

Contents

- 2 巻頭言
- 3 卒業生へのメッセージ
- 4 国際交流
- 5-6 学校行事
- 7 福島ひまわり里親プロジェクト
- 響き合うまちと学校
- 8-9 探究
- 10 生徒会活動報告
- 教科セミナー
- 11-15 部活動レポート

巻頭言

汲む — Y・Yに —

茨木のり子

大人になるといふのは
すれっからしになることだと
思い込んでいた少女の頃
素敵な女のひとと会いました
そのひとは私の背のびを見すかしたように
なにげない話に言いました

初々しさが大切な
人に対して世の中に対しても
人を人とも思わなくなったとき
墮落が始まるのね 墮ちてゆくのを
隠そうとしても 隠せなくなった人を何人も見ました
私はどきんとし
そして深く悟りました

大人になってもどきまぎしたっていいんだな
ぎこちない挨拶 醜く赤くなる
頼りない生牡蠣のような感受性
それらを鍛える必要は少しもなかったのだな
年老いても咲きたての薔薇 柔らかく
外にむかつてひらかれるのこそ難しい
あらゆる仕事
すべてのいい仕事の核には
震える弱いアンテナが隠されている キット……

(詩集『鎮魂歌』より) ※詩の一部を略しました

自分の中の「震える弱いアンテナ」

高校時代の私の中には「どうして自分は、みんなのようにうまくできないんだろう」という思いがありました。それは部活動でもそうですし、勉強も人間関係もそうです。例えば私がぐずぐず迷っているようなときでも、クラスメイトはさっさと道を決めて進んでいくように見えました。私が過去の失敗にくよくよしているときでも、友人は日々を明るく過ごしているように見えました。

やがて私も仕事をし、長く生きていくうちに、自分の劣等感ともうまく付き合えるようになっていきました。そして出会ったのが、詩「汲む」でした。この詩の背後には、詩人となる前の茨木のり子が、山本安英(Y・Y)に招かれて彼女の家に行った出来事がありました。山本安英は戦前から名を馳せていた大女優です。山本は、のり子に対して優しく論じます。人は「初々しさが大切な」と。それを聞いた少女は「どきんとし そして深く悟りました」。「大人になってもどきまぎしたっていいんだ」と。また「頼りない生牡蠣のような感受性 それらを鍛える必要は少しもなかったのだ」と。

この詩を通して私は、自分の中の弱さにも意味があったのではないかと、むしろ傷つきやすい感受性こそが、仕事を磨く砥石となるのではないかと思えるようになりました。

今、卒業を迎えた皆さんへ。この3年間、皆さんがきらきらと活躍する姿を、私はまぶしい気持ちで見えました。しかしこれからの人生には、自信を無くして悩んだり、他の人をうらやんだりする日が来るかもしれません。そんなときにでも「人生の勝者は、自分の人生を生き抜いた人だ」と、私は伝えたいと思います。

皆さん、ご卒業おめでとう。皆さんの幸せを、私たちはここ安城の地からずっと祈っています。



安城学園高等学校
校長 熊谷 誠人

卒業生・保護者の皆様へ

学年主任より3年間を振り返るとともに感謝のメッセージ



誇りと自信を胸に
3年学年主任 鈴木 一樹

生徒諸君、並びにご家族の皆様、この度はご卒業、誠にありがとうございます。

私たち教職員一同は、皆さんが安城学園で過ごした3年間の歩みを、励まし、時に寄り添いながら見守ってまいりました。振り返れば、笑顔も涙も努力もあった日々。その一つひとつが皆さんを大きく成長させ、本日この晴れやかな舞台へと導きました。

卒業を迎えた皆さんの姿を目にし、胸が熱くなるほどの感動と、込み上げる深い誇りを禁じ得ません。ここまでの歩みを決して当たり前とは思わず、皆さん一人ひとりに心からの敬意を送ります。

—再びよみがえった学校行事—

皆さんが安城学園に入学した時、まだ社会には新型コロナウイルスの余韻が残り、思い描いていた高校生活とは異なる日々のスタートだったかもしれません。

中学校で十分に経験できなかった行事の数々。胸に抱えていた不安や物足りなさ。それらを乗り越えるかのように、皆さんは新しい日々を静かに、しかし確かに歩み始めました。

高校入学後、行事を再開するための準備を進める中で、私たちも、皆さんやご家庭の不安を和らげることに心を砕いてきました。感染対策を意識しながら、一つ、また一つと行事が戻ってきたとき、生徒の皆さんだけでなく私たちの表情が明るさを取り戻していくのを感じました。

学園祭での弾ける笑顔、合唱コンクールではクラスの想いと歌声をひとつに重ね心を揺さぶった感動、体育祭で声を枯らしながら仲間と走り抜けた瞬間、修学旅行で見せてくれた伸びやかな姿。そして行事を一つでも多く楽しんで思い出を残して欲しいとのことで実施した遠足。どの場面も、皆さんの心にとって大きな救いとなり、未来への希望となったことと信じています。

制限の多い状況を共に乗り越え、安城学園の伝統ある行事が完全復活を迎えられたのは、皆さんが互いを思いやり、理解し合い、支え続けてくれた結果です。

この「乗り越えた経験」は、皆さんの人生において揺るぎない財産となることでしょう。

—安城学園の精神とともに歩んだ日々—

安城学園の建学の精神は「家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与える人間の育成」です。

この理念は、皆さんが3年間で身につけてきた“思いやり”“謙虚さ”“社会に役立ちたいという心”そのものです。さらに、四大精神「真心」「努力」「奉仕」「感謝」。皆さんはこれらを、特別意識するのではなく、日々のふるまいの中で自然と体現してくれていました。

現状に満足せず努力を続ける姿、仲間を思い支え合う姿、感謝の言葉を素直に伝える姿。そのすべてが、私たちに深い感動を与えてくれました。

「自分を過小評価せず、高みを目指してほしい」この言葉を私は3年間伝え続けてきました。皆さんが挑戦し続ける姿を私たちは何度も目にしました。その積み重ねこそが、今日の皆さんの凛とした姿につ

ながっています。

どうかこれからも、自らの可能性を信じ、未来に向かって堂々と歩み続けてください。

—安城学園に誇りを持ち、未来へ羽ばたく皆さんへ—
安城学園で学んだ時間は、教科書の知識だけではなく、人としての在り方を学び、磨き上げる時間でもありました。

「庶民性」——謙虚に物事を捉え、人の思いに寄り添う温かな心。
「先見性」——未来を見据え、勇気を持って前へ進む力。

この二つの理念は、皆さんが社会に出たとき、確かな道しるべとなってくれるはずです。

安城学園で培った価値観を胸に、人々に温かさや希望を与える存在として歩いていってくれることを心より願っています。

—未来への挑戦に向けて—

皆さんがこれから進む道には、喜びもあれば迷いもあるでしょう。ときには立ち止まり、悩むこともあるかもしれません。

しかし、この3年間の中で皆さんが見せてくれた姿勢——
真心をもって向き合い、努力を惜しまず、奉仕の心を大切に、感謝を忘れない

この姿勢は、どんな困難にも立ち向かう力となります。
どうか未来を恐れず、胸を張って進んでください。自分を信じ、仲間との絆を信じ、大きく羽ばたいていってください。

—保護者の皆様へ—

保護者の皆様、長きにわたり本校教育にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

特に、新型コロナウイルスの影響が残る高校での新生活は、ご家庭にとって大きな不安とご苦勞があったことと存じます。その中でも、ご子息、ご息女を信じ、支え続けてくださったことに、深く敬意を表します。

本日、生徒達が立派に卒業の日を迎えたことは、ご家族の皆様のお愛情と支えの賜物です。

これからも温かく見守り、未来へ向かう大きな背中をそっと押していただければ幸いです。

—結びに—

改めまして、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうありがとうございます。
安城学園で培った力を信じ、自らの道を力強く切り拓いてください。どんな未来が待っているとしても、皆さんなら必ず乗り越え、輝く姿を見せてくれることでしょう。

どうか誇りを持ち、自信を胸に歩みを進めてください。

そして——いつでも安城学園に帰ってきてください。

ここは、皆さんの成長を見守り続ける「母校」であり、帰る場所であり続けます。

皆さんの未来に、限りない幸せと成功が訪れますよう、心より祈念しております。



海外ホームステイを終えて

英語科主任 杉浦 竜也



今年度の夏期語学留学の舞台はオーストラリアのパーズでした。参加した生徒たちにとって、2週間のホームステイはかけがえのない実りある経験となりました。異文化の中での生活や日々の小さな挑戦を通じ、語学力はもろんのこと、「積極的に話す」「自分で解決する」「相手を思いやる」といった姿勢の変化が、目に見えて表れていました。

治安が良く時差も少ないパーズは、保護者の皆様にとっても安全な環境下で生徒たちが「適度な困難」を自力で乗り越えていく姿を、安心の材料として見守っていただけたのではないかと思います。私自身も、生徒たちと一緒に学び、考える時間を過ごす中で、教育者として多くの気づきを得ることができました。

この体験は、生徒一人ひとりの価値観に深く刻まれる一生の財産となったと思います。彼らのこれからの成長を期待するとともに、本研修を支えてくださった全ての皆様に、心より感謝申し上げます。

Exchange with Korean High School

国際交流 Simon Kew



In second semester, International Club members participated in a cultural exchange activity with students from an International Studies class at Seoun High School in South Korea. Students uploaded self-introductions onto an online bulletin board, and then introduced one thing about their cultures. Then, they did video calls so they could communicate directly with one another in English. Through this experience we could learn a lot about Korean history, cuisine, K-dramas K-pop. Students from their school were very active and humorous and we all had a great time!



英検合格者

2025年度 第1回と第2回英検の 結果報告

(合格者数/受験者数)

第1回

準1級 … (14名/31名中 合格)
2級 … (9名/52名中 合格)
準2級プラス … (9名/20名中 合格)
準2級 … (27名/64名中 合格)
3級 … (19名/28名中 合格)

第2回

1級 … (3名/13名中 合格)
準1級 … (3名/11名中 合格)
2級 … (20名/38名中 合格)
準2級プラス … (7名/18名中 合格)
準2級 … (8名/23名中 合格)
3級 … (2名/7名中 合格)

学校行事

球技大会

大会成績

【男子】 優勝：3年7組/準優勝：3年9組
【女子】 優勝：3年3組/準優勝：3年商業2組

男子 優勝クラス

3年7組 岩田 滉臥(富士松)

今年は体育大会が1位と2.5ポイント差で惜しくも準優勝というクラス全員が大変悔しい思



いをしてしまいました。そのため球技大会が高校生活最後のスポーツ行事となり、リベンジをかけてより熱の入った大会になりました。私たちは2年連続優勝に燃える担任の岡山先生の熱血指導に耐え、数ヶ月前から自分たちで地元の体育館を借りながらバレーの練習を自主的に取り組んできました。粘り強く諦めずに練習に取り組んだ結果、見事に全校優勝することができました。僕たちは本番でサーブのミスが多く、その度にクラスの子に励ましてもらっていました。そして、スパイクがバッチリ決まった時は、クラス全員が自分のことのように喜んでくれて、すごく嬉しかったです。今回も大会を通してクラスの仲を、より一層深めることができました。高校生活も残りわずかですが、より多くの思い出をつくりたいです。

女子 優勝クラス

3年3組 宮川 千尋(幸田南部)

3年間で最後となるクラス対抗の球技大会で、私たち3組は優勝することができました。

体育大会が終わってから、クラス一丸となって「優勝」を目標に掲げ、体育の授業のバレーにも、どのクラスよりも真剣に全力で取り組んできました。練習を重ねる中で、他クラスの友人から「3組、絶対強いじゃん」と言われるほどになりました。迎えた本番では、相手に付け入る隙を与えずに勝ち上がり、決勝戦では相手を19点に抑えて見事優勝することができました。個人的に、この最後の球技大会で優勝することが夢だったので、それを叶えられたことが本当に嬉しく、支えてくれた3組の仲間たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。もうすぐ卒業を迎えますが、最



後まで3組らしく、どのクラスよりも賑やかで明るい時間を過ごしていきたいです。3組のみんな、大好きだよー!!

Winter Concert

合唱選択

3年3組 野村 夏音(竜北)

私たちはいつも元気に授業に参加し、幅広い楽曲を合唱してきました。発声練習では正しい姿勢や呼吸を意識し、基礎の大切さを学びました。コロナ禍で合唱ができない時期を経験したことで、皆で歌える喜びを実感しました。パートはメゾを担当し、音程に苦戦しながらも仲間と励まし合い、本番では最も納得のいく合唱ができました。両親から「年々上手になっていて感動した」と言ってもらえ、三年間努力してきた本当に良かったと心から思いました。



オーケストラ選択

3年2組 服部 礼奈(碧城南)

私は3年間、授業でオーケストラを選択してきました。普段の授業では、ウィンターコンサートに向けて練習を重ねたり、曲に関連する作品を鑑賞したりしながら、演奏への理解を深めています。経験者もいれば初心者も多く、先生や仲間同士で教え合いながら上達してきました。私自身も演奏経験のないピオラを選びましたが、合奏したときの一体感が心地よく、もっと上達したいと思うようになりました。高校生活最後のコンサートでは、三年生として素晴らしい演奏をしなければならぬという緊張もありました。しかし、準備の過程を楽しむ仲間の姿に励まされ、気持ちがほぐれ、これまで一番楽しい演奏会になりました。何かを成し遂げることも大切ですが、それ以上に過程を楽しむことの大切さを学びました。これからも音楽を全力で楽しみたいと思います。



3年2組 森下 莉子(竜海)

私たちオーケストラ選択では、クラシックやジャズ、ディズニーなど、さまざまな曲を表現の工夫を重ねながら練習してきました。私は2年間オーケストラを選択し、1年ごとに楽器を変更してきました。最初は一つの音を出すことに精一杯でしたが、毎週2時間という限られた時間の中で、きれいな音の出方を研究したり、同じ楽器の仲間から教えてもらったりしながら、困難を乗り越えることができました。ウィンターコンサートで演奏した「クリスマス・フェスティバル」では、練習のとき以上に一体感のある、これまで一番の演奏ができたと感じています。この経験を卒業後も大切に、今後に生かしていきたいです。

針供養

3年4組 池末 あや(高浜)

私は初めて針供養という行事に参加しました。針供養とは、折れたり曲がったりして使えなくなった針を豆腐に刺し、これまでの働きに感謝するとともに、裁縫の上達や無事を願う行事です。今回の体験を通して、今まで何気なく使っていた針が、たくさんの布を縫い、私たちの生活を支えてきた大切なものであることに気づきました。針にも命や役割があり、役目を終えた後も丁寧に扱うことの大切さを改めて感じました。また、裁縫の授業では、友人と協力しながら作品を作り上げる中で、物作りの難しさと同時に完成した時の達成感を味わうことができました。途中で分からない部分があり苦労する場面もありましたが、友人に助けをもらいながら最後まで作り上げることが出来ました。針供養を通して、針だけでなく身の回りの物すべてに感謝し、大切に使い続けていきたいです。



に参加するたびに、物を大切にしようという気持ちを新たにしました。針供養は、そうした当たり前を見直すきっかけになっていたと感じます。また家庭科の授業では、防災袋を作りました。縫い合わせていく作業は難しく、特に細かい部分では友人と助け合いながら取り組みました。針を使って何度も縫い直す中で、1つの物を作ることができました。参加を通して学んだ、物を大切にすることは、今後の生活でも大切にしていきたいです。



3年10組 水野 結菜(安城南)

私は入学してから毎年、針供養に参加してきました。参加する中で、使えなくなった針を供養し感謝を伝えるこの行事の意味を、少しずつ理解できるようになったと思います。折れたり曲がったりした針を豆腐に刺す行為には、これまで役目を果たしてくれた針を労わる気持ちが込められています。普段の生活では道具の存在を意識することはあまりありませんが、針供養

弁論大会

最優秀賞 2年5組 松井 幸菜(幸田北部)
「それでも私は」
優秀賞 商業科2年2組 越智 心雪(福地)
「失敗を避ける前に」

優秀賞 2年12組 小笠原 輝俊(碧南南)
「2024年7月7日」
特別賞 2年1組 長坂 幸奈(豊城)
「あなたが笑ってくれたから」



弁論大会を通して

弁論の授業を通して、「もう大丈夫だ」と思って書いた言葉を覚えようと何度も声に出すうちに、気づかないように蓋をしてきた想いと正面から向き合うことになりました。大会当日は、毎日顔を合わせるクラスの人や、初めて見る他クラスの人たちの弁論を聴きました。そこには、それぞれの想いや、その人を形作ってきたこれまでの出来事が詰まっていた。時間が経っても昇華できなかったことや、これから向き合うべき自分について考え抜いた言葉だからこそ、心に残ったのだと思います。思っていることすべてを言葉にするのは難しいけれど、私なりに選んだ私の言葉が、誰かの心に届いていたら嬉しいです。

2年5組 松井 幸菜(幸田北部)

生徒審査員の視点から

私は今回の弁論大会で生徒審査員をさせていただきました。15人の弁士の話審査するという貴重な視点で聞けたことがとても嬉しかったです。審査をしていく中で、身近な出来事で共感を呼ぶ話に心を惹かれました。弁士と聞き手の間に多くの共通点を見出すことで自然と聞き手も主観的になり、弁士の話に入り込むことができると気づかされました。私自身も弁士の話と自分が体験したことを重ね合わせ、そのときには分からなかった気持ちに気づくことができ、とても感動しました。この弁論大会で他者の人生と自分の人生の一部を交換しあって、それぞれの心の理解を深め合う、今までに体験したことのない貴重な機会になりました。

2年3組 岡藤 有希(岡崎北)



私学弁論大会

愛知県私学弁論大会 第2位

3年10組 清水 優花(西尾)

令和7年11月20日木曜日、瀬戸市文化センターで行われた、愛知県私学弁論大会に出場しました。部活、定期テスト、面接練習、受験を同時進行しながら、弁論と毎日向き合いました。本番5日前、全然集中できず、気分転換に曲を聴いたりYouTubeを見たりしたけれど、時間が過ぎていくだけで何も変わりませんでした。そんな時母から、「何かを捨てなければ何も得ることは出来ません。」と言われ、自分の自由の時間を全て弁論に捧げました。この大会に向けて、沢山の先生が協力をしてくださいました。国語の先生から「弁論は言葉で勝負するもの、身振り手振りはいらぬ。」とアドバイスを受けた時に、弁論とは何かかが明確になりました。熊谷校長とすれ違う度「優花さん頑張って

ください。」と熱いエールを送ってくださったことが嬉しかったです。担任からクラスの皆に「優花が弁論大会の代表で出る。」と伝えてくださり、みんなが応援してくれたことで改めて気が引き締まりました。当日の朝、会場へ向かう車の中でアナと雪の女王のLet It Goを3回大熱唱して、喉の調子を整えました。昼食時、各校の弁士達は控室にいる中、私は外で母と最終調整をしました。弁論は7分までという制限がある中、その時のタイムは6分36秒。良い調子だ。結果は、見事第2位という名誉ある賞を得るとともに、愛知県私学協会会長賞、愛知県議会議長賞、中日新聞社賞の賞状3つ、盾2つもいただくことができました。これは皆様の支えがあったからこそこの結果です。貴重な体験をさせて下さりありがとうございます。これからも、無限の可能性を信じて歩み続けます。ごきげんよう。



遠く離れていてもできること

「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加し、9年目を迎えました。デンパーク、碧海信用金庫、アンフォーレ、丈山苑、福祉センター、安城歴史博物館など、多くの方々のご協力で、今年度もひまわりの種を1300セット配布できました。1月、「ひまわり年間活動報告・ひまわりの種送付会」を行い、集まった153kgの種うち、130kgを福島に送りました。里親になって下さった皆さん、ご協力して下さいました。ありがとうございます。私たちは「チームふくしま」から届いた感謝状を届けたり、夏休みには「命を学ぶプロジェクト」の一環として福島県を訪れました。原子力災害考証館、中間貯蔵施設などを訪れ、東日本大震災について、改めて学びを深めました。

福島ひまわり里親プロジェクト
収穫量153kg 130kgを福島へ

2年10組 市川 歩花(形原)

9月の学園祭では、核兵器禁止条約批准の賛否を問う模擬国民投票や「福島の大地に立って〜牛と遺骨とひまわりたち〜」と題した放送劇を全校放送し、原子力災害の恐ろしさを共有できました。オータムフェスティバルでは「風化と闘う〜原子力災害考証館開設の思い〜」と題した講座を開き、福島から館主の里見喜生さんをお呼びしました。私はこのプロジェクトを通して、人と人とのつながりの大切さを学びました。人のためにやろうと思っていた活動ですが、いつからか私自身のためになっていたと言ふことに気づきました。これからも、福島の方々笑顔に届けられるように「遠く離れていてもできること」「遠い場所に思いを馳せること」をテーマに取り組んでいきます。



2026年1月 ひまわりの種発送



2025年5月 感謝状贈呈 碧南・咲かそうひまわりの会



2025年8月 福島第一原発を臨む福島スタディーツアー

響き合うまちと学校

吹奏楽部

吹奏楽フェスティバル
2025年12月21日 西尾市文化会館

「吹奏楽フェスティバル」に参加して

3年2組 山木 雅捺(若園)
12月21日に西尾市文化会館で行われた吹奏楽フェスティバルに参加しました。同じ西三河地区の西尾高校さんと吉良高校さんと合同演奏をさせていただき音楽を通じて交流を深めることができました。同じ地域で合同演奏することが少ない中3校で1つの音楽を作り上げることができたことはとても勉強になりました。これからも地域との関わりを大切に頑張っていきたいです。



弦楽部 第31回定期演奏会

2026年1月12日 へきしんギャラクシープラザ マツバホール
3年12組 三浦 優葉(高豊)

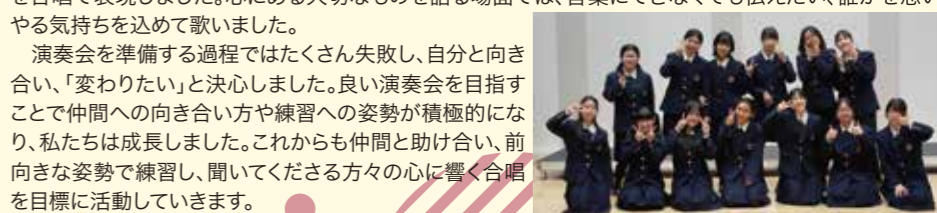
定期演奏会を終えて
弦楽部第31回定期演奏会を、無事に終えることができました。当日は緊張もありましたが、最後まで心を込めて演奏をお届けすることができ、達成感のある演奏会となりました。これまで積み重ねてきた練習の成果を、多くのお客さまの前で発表できたことを、大変嬉しく思っております。今年度は全国大会にも出場し、最優秀賞および特別賞を受賞することができました。日頃よりご指導くださった先生方、共に努力してきた仲間、そして温かく見守り支えてくれた家族や多くの方々の応援があったからこそこの結果だと、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

このメンバーで演奏する最後の機会となり、寂しさも感じますが、共に音楽と真摯に向き合い、過ごした時間は、かけがえのない大切な思い出です。ご来場くださった皆さま、本当にありがとうございました。また、3月18日に豊田市コンサートホールで開催される学泉大学定期演奏会にも出演します。ぜひお越しいただけましたら幸いです。

合唱部 第21回定期演奏会

2025年12月25日 アンフォーレホール
2年10組 山本 麻友(知立南)

定期演奏会を終えて
今年の演奏会は、サンタクロースがいるのか知りたい女の子の手紙に、新聞記者が答える絵本の物語を合唱で表現しました。心にある大切なものを語る場面では、言葉にできなくても伝えたい、誰かを思いやる気持ちを込めて歌いました。演奏会を準備する過程ではたくさん失敗し、自分と向き合い、「変わりたい」と決心しました。良い演奏会を目指すことで仲間への向き合い方や練習への姿勢が積極的になり、私たちは成長しました。これからも仲間と助け合い、前向きな姿勢で練習し、聞いてくださる方々の心に響く合唱を目標に活動していきます。



探究

愛知県刈谷市の交通事故について

1年1組 上村 琉依(朝日)

私がこの課題を調べようと思ったきっかけは、普段から自転車を通学や移動手段として使っていることです。刈谷市の交通事故数を調べた際、愛知県は全国で2番目に事故が多いと知り、決して他人事ではないと感じました。自分でできることや発信できることを考え、このテーマに取り組むことにしました。



探究活動では、校門に立って登校する生徒を観察したり、安城警察署の方から話を聞いたりしました。その中で最も大切だと感じたのは「関心を持つこと」です。交通事故は身近に感じにくく、多くの人が危険を意識していないと知りました。実際、ヘルメットを着用していない生徒も多く、まずは一人ひとりが関心を持つことが安全につながると学びました。

AIなどの台頭による雇用喪失

1年3組 福永 そら(雁が音)



この課題に注目したのは、自分がスマホやAIに頼りすぎていると感じたことがきっかけです。分からないことをすぐに調べられる便利さの一方で、自分で考える力や集中力が弱くなっているのではないかと不安になりました。また、AI技術が進化する中で、将来多くの仕事がAIに代替される可能性があることと知り、人間にしかできない力を大切にすることを学びました。

探究活動を通して、未来の働き方や社会の変化について深く考えるようになり、自分の行動が将来に影響することを実感しました。これからは、すぐにAIに頼るのではなく、まず自分で考え、人とのコミュニケーションを大切にしながら行動していきたいです。

施設に通っている高齢者の方々が健康でより楽しい生活を送るためには？

私は高齢の曾祖母と祖父と生活しており、曾祖母は認知症、祖父は糖尿病を抱えています。どちらも高齢者がなりやすい病気ですが、早い段階で予防することで健康寿命を伸ばし、少しでも長く自分のやりたいことが自分でできると感じたことが、この課題に取り組むきっかけでした。身近な家族の姿を見て、「高齢者の健康を守るために自分にできることは何か」を考えるようになりました。

私一人では社会全体を変えることはできませんが、私が伝えることで誰かの未来が変わるかもしれない。そんな小さな行動が積み重なれば、若い世代の力で高齢化社会をより良くしていけるのではないかと思います。この思いが今回の発表につながっています。

つながる読書 本×地域×人

2年5組 前田 こころ(鎌倉台)

2年5組 牧野 伶南 (吉良)



私たちはアンフォーレ図書館の方へのインタビューを通して、利用者数が減少し、新規利用者もなかなか増えていないという課題を知りました。図書館は本を借りるだけの場所ではなく、人が集まり、新しい発見が生まれる大切な公共の場です。その魅力をもっと多くの人に知ってもらいたいという思いから、この課題に取り組むことにしました。また、学校でいつも親切に対応してくださる司書の方々の姿を見て、普段段のような仕事をしているのを知りたいという興味も、この活動を始めるきっかけになりました。

中間発表会では、スライドの色分けや配置が見やすく、イラストも分かりやすいと評価していただきました。一方で、利用者数減少に関する資料がなく課題が伝わりにくいこと、スライドの文字量が多いことを指摘されました。改善点が明確になったことで、より伝わる発表するためにスライドを中心に直そうと感じました。

そこで利用者数のグラフを追加し、文字量を減らして視覚的に理解しやすい構成にしました。

企画を提案した際には、「現実的で良い」「コスト面を考えているのが良い」「宝探しの要素があって楽しめる」など、職員の方から好意的な反応をいただきました。発表中、笑顔で聞きながら聞いてくださる姿を見て、不安が安心に変わり、自分たちの企画が誰かに伝わることで実現に近づくのだと実感しました。

活動を通して、質問の仕方によって相手の本音や課題を引き出せること、そして学生だけでは気づけない視点が多くあることを学びました。また、意見をもらいながら企画を客観的に見直し、「正解」を求めるのではなく「改善」を重ねる姿勢の大切さを知りました。今後の探究活動でも、相手の立場に立って考え、伝える力を生かしていきたいです。

1枚の絵画から明るい未来へ

1年12組 川上 寧心(大府南)

通学や遊びで必ず利用する大府駅の階橋に、ゴミが落ちている様子をよく見かけることがあります。中学生の頃に家族と近所のゴミ拾いをした経験があり、いつか大府駅も自分の手で綺麗にしたいと思っていました。また、お年寄りの方がゴミ拾いや嘔吐物の処理をしている姿を見て、毎日利用している私たちが何もできていないことに罪悪感を覚え、探究の授業を通して役に立てることを考え始めました。

学生の絵画を使って写真スポットを作る案は、「綺麗に保ちたい」という気持ちを自然に生み、ゴミを減らせるのではないかと考えたのです。今回の活動では、自分でできる解決策を探す視点の大切さを学び、身近な地域に貢献できる喜びを感じました。



農業減少を止めるために

1年13組 小塚 玲月(六ツ美)

私は農家の減少についてプロジェクトを考えました。きっかけは、保育園の頃に畑で野菜を育てた経験がとても楽しく、農業に親しみを感じていたことです。調べてみると、2020年から2050年の間に農業経営体数が84%減少すると予測されており、その主な原因は高齢化による後継者不足であることが分かりました。そこで、保育園や幼稚園、小学校に畑をつくり、子どもたちが育てる体験を通して農業に興味を持つきっかけをつくるのが大切だと考えました。

今回の授業を通して、問題を解決するには原因を調べ、順序立てて考えることが重要だと学びました。これからは結果だけを見るのではなく、そこに至る過程を大切にしながら生活していきたいです。



1年14組 遠藤 心絆(矢作)

免許返納ガチャ

2年6組 小久江 侍勇(鶴城)

2年6組 笹口 悠太(塩津)

2年6組 舩スマークジャスパー(西浦)

私たちは、日本で高齢化が進む中、高齢者が関わる交通事故が社会問題になっていることに関心を持ち、このテーマについて調べることになりました。ニュースでもアクセルとブレーキの踏み間違いによる事故が増えていると報じられており、免許返納を促す取り組みの必要性を感じたことがきっかけです。

中間発表では内容が浅く、自分たちの思いを十分に伝えることができませんでした。また、免許を返納する高齢者の中には体力が低下している人も多く、返納後の生活を支える対策が必要だという指摘も受けました。その時、自分たちの準備不足を痛感しました。

当初、私たちの「免許返納ガチャ」の景品には電動自転車を用意していましたが、指摘を受けて「電動自転車を運転する体力がない人もいる」という視点に気づき、シニアカーを追加する改善を行いました。訪問先では「高齢者の気持ちをよく考えられている」と高く評価していただき、対象となる人の立場に寄り添った提案ができたことに達成感を覚えました。

今回の活動で強く感じたのは、多くの人の「生の声」を聞くことの大切さです。家族である祖父や、市役所の方、先生方、3年生の先輩など、さまざまな立場の人の意見を聞くことで、自分たちが知らなかった価値観や生活環境を知ることができました。その経験が発表内容の改善につながり、人の声に耳を傾けることの重要性を実感しました。この学びを今後の受験やプロジェクトづくりにも生かし、多くの意見を取り入れながらより良い方向へ進めるよう、人の声を大切にしていきたいです。



安全博士を目指せ！～楽しく学んでケガ0へ～



2年7組 玉井 志尚 (大府)

2年7組 後藤 未羽(安城北)

2年7組 大竹 沙那(六ツ美)

2年7組 金澤 蒼空 (幸田)

私たちは、子どもたちが遊ぶことが大好きで好奇心旺盛である一方、身近な危険に気づかず怪我をしてしまうことが多い点に注目しました。子どもたちに怪我をしてほしくないという思いと、危険を予測する力を身につけてもらいたいという願い、そして保護者が安心して子どもを預けられる環境づくりに貢献したいという考えからこの活動を始めました。

中間発表会では、私たちのテーマとは異なる分野の企業の方が聞きに来てくださり、真剣に耳を傾け、多くのアドバイスをいただきました。褒めていただけた部分もあり、その時点で少しやりがいを感じる事ができました。また、企業の方が私たちの考えに納得し、共感してくださったことも大きな励みになりました。自分たちが調べてきた内容をまっすぐに受け止めてもらえたことで、自信にもつながりました。

活動を進める中で、運動教室ではどのような取り組みが行われているのか、子どもたちがどんな怪我をしやすいのかなど知らなかったことが多くありました。調べていく中で、子どもたちはとても元気で危険を理解していないこと、専門的な言葉や考え方があることなど、多くの学びを得ることができました。

今回の活動を通して、子どもたちの安全を守るために何ができるのかを考える大切さを実感しました。将来社会に出たときには、遊具で遊ぶ子どもたちの様子に気を配り、怪我を少しでも減らせるよう周囲を見ながら行動していきたいです。

ミサングで壁を無くそうプロジェクト

2年9組 高橋 勇汰(高浜南) 2年9組 前島 真由子(高浜南)

2年9組 星野 伶奈(豊川東部) 2年9組 榊原 耕作(鶴城)

私たちは全員が教育分野に興味を持っており、調べる中で「社会福祉サービスサポートバディ 放課後等デイサービス びよランド」を見つけました。将来教師になったとき、障害のある子どもと関わる場面があるかもしれない。そのときに備えて、今のうちから理解を深めておくことは必ず役に立つはずだと考え、この企画をスタートさせました。

中間発表会では、外部講師の方から「緊張していたのか早口になっていた。内容はとても良いのもったいない」という言葉をいただきました。この指摘が特に印象に残り、もっと良い発表にしたい、まだ工夫できる部分があると強く感じました。次の訪問先での発表に向けて、改善点をしっかりと反映させようという気持ちを新たにしました。

2回目の訪問では、中間発表の反省を踏まえ、スライドをシンプルにし、話す速度にも気をつけながら発表しました。すると担当の方から「いいね、やろう」と即答していただき、驚きとともに大きな喜びを感じました。さらに、その場で他のスタッフの方々も前向きに話し合ってくれた様子を見て、自分たちの提案が受け入れられたという達成感が湧き上がりました。

今回の活動を通して、人に向けてプレゼンをすることの難しさや、ひとつの企画を形にしていくなかで大変さを実感しました。同時に、この経験は自分たちにとって大きな成長につながると感じています。ここで得た学びを、今後の学校生活や将来の進路に生かしていきたいです。

病院に彩りを——音楽と芸術がもたらす癒し

2年11組 百武 花萌(新川) 2年11組 堀田 ひより(鶴城)

2年11組 杉浦 彩愛(明祥) 2年11組 岡田 琉花(安祥)

この課題に注目したきっかけは、夏休みに八千代病院を訪れた際に感じた独特の緊張感でした。病院は病気やけがを治すために必要な場所である一方、多くの人が不安や恐怖を抱えながら過ごす空間でもあります。院内を見て回ると、壁や待合室には芸術作品がほとんどなく、音楽も流れていないため、全体的に無機質で静かな印象を受けました。患者さんや家族が長い時間を過ごす中で、心を落ち着かせたり気分を明るくしたりする工夫が少なく感じ、病院における芸術や音楽の役割について考えるようになりました。

中間発表前には3年生からアドバイスをもらい、指摘された点をもとにスライドを作り直しました。原稿を読むだけでなく、画像やグラフを取り入れ、視覚的にも伝わりやすい発表を意識しました。発表後には「改善されていて良かった」と評価してもらえ、自分たちの成長を実感しました。一方で、地域の方から「前を向いて話すとっと良い」という意見もいただき、緊張で下を向いてしまっていたことに気づきました。次に生かすため、感想をメモして振り返るようにしました。

2回目の訪問では、内容をさらに深く調べ、修正した点や新たな提案を看護師さんに分かりやすく伝えることを意識しました。理由を添えて説明すると、看護師さんは頷きながら真剣に聞いてくださり、自分たちの思いがしっかり伝わったと感じました。

実際に病院を訪れたり、患者さんについて調べたりする中で、現場を知る大切さの大切さを実感しました。インタビューもほぼ初めてで、言葉遣いや話す内容など考えることが多く大変でしたが、先生や先輩の助言、他グループの発表から学び、少しずつ良い形にしていけることができました。今回の活動を通して、看護師という職業だけでなく、目上の方への話し方や自分の考えを伝える力など、多くの学びを得ることができました。今後インタビューをする機会があれば、この経験を生かしてよりスムーズに取り組んでいきたいです。



パン旅カレンダー



2年8組 豊田 奈央(犬山東部)

2年8組 上田 柚貴 (翔南)

2年8組 廣村 莉音(安城北)

2年8組 森 千尋 (豊南)

私たちはパンのトラ安城店を取材した際、店頭で並ぶ多くのパンが毎日すべて売り切れているのか、売れ残ったパンはどうしているのかという疑問を持ったことや、パンが焼き上がる時間がわかればパン屋に行きたくなくなる人が増えると思ったことが、この活動を始めたきっかけです。さらに、中間発表の際に商工会議所の融資制度について教えていただき自分たちでもアプリを作れる可能性があることと知り、企画への意欲が高まりました。しかし、中間発表で指摘してもらったことでアプリの作成期間や費用の計画の甘さを実感し、より多くのサイトで情報を確認する大切さを感じました。この反省から、より信頼性の高い、現実的な発表を目指す必要性を感じました。

実際に取材してみると、事前に調べただけでは分からないことがたくさんありました。お店の方の思いや努力を聞くことで、仕事の大変さややりがいを知り、自分たちが想像していた以上に「仕事」というものは厳しいものでもしたが、好きなものを仕事にできるのは本当に幸せで毎日楽しいことなのだと感じ、ずっと続けたいと思える魅力があるのだと思いました。

今回の取材を通して、特に「事前準備の大切さ」を学びました。ただネットの情報を調べるだけでなく、実際に人の話を聞くことで、より深い理解につながることを実感しました。この経験を今後の授業や探究活動にも生かし、相手の立場に立って思いを丁寧に聞き取りながら、より良い企画づくりにつなげていきたいです。

White memory project



2年10組 市川 歩花 (形原)

2年10組 長田 佑月(高浜南)

2年10組 神谷 璃緒(雁が音)

2年10組 山本 麻友(知立南)

私たちは、観光に興味を持ち、安城市の観光地「デンパーク」へ取材に行きました。取材を通して、季節によって入園者数が大きく変わり、特に冬は来園者が少ないという課題に気づきました。そこで、冬でも訪れたいと思ってもらえるような企画づくりに取り組むことにしました。

中間発表会で印象に残ったのは、「もっと自分ごととして考えること」「その取り組みで本当に街が盛り上がるのかを考えることが大切」という言葉です。私たちの考えがまだ表面的で、より深い視点が必要だと気づかされました。

2回目の訪問では、当初予定していたデンパークではなく、市役所の観光担当の方々にお話を伺いました。中間発表会での助言を踏まえ、私たちの提案が本当に街のためになるのかを意識しながら意見を伝えました。担当の方から「高校生が街づくりのために考え、行動し、参加してくれることが嬉しい」という言葉をいただき、自分たちの活動が少しでも地域に貢献できていると実感し、励みになりました。

活動を通して、私たちは「どうすればこの街が盛り上がるのか」を改めて考え直しました。当初は「お客さんが少ないならイベントを増やせばよい」と単純に考えていましたが、実際に行動する中で、本当にそれで街が盛り上がるのか、他に隠れた課題はないのかと疑問を持つようになりました。これからも、目の前の課題だけでなく、その先にある影響まで想像し、「本当にそれが問題なのか」を問い続けながら、より良い街づくりにつながる考え方を深めていきたいです。

輝くデンパーク



2年12組 大山 桃 (竜北)

2年12組 柴田 彩寧 (依佐美)

2年12組 鶴田 芽依 (安城南)

2年12組 ホンダ ユカリ(矢作北)

私たちは小さい頃によく遊びに行っていたデンパークに、高校生になってから足を運ぶ機会が減ったことに気づきました。同じように感じている人が多いのではないかと思います。デンパークの来場者数に注目しました。調べてみると年々来場者数は減少し、安城市民以外では知名度が高くないことも分かりました。そこで、幼い頃に親しんだデンパークの魅力をより多くの人に知ってもらい、「行ってみたい」と思ってもらえるようにしたいという思いから、この活動を始めました。

「たくさんアイデアの中で、あなたたちが一番頑張りたいことは何ですか」と質問されたことが特に印象に残っています。私たちは想像力豊かで多くの案を出しましたが、実現が難しいものも多く、高校生として本当に取り組めることを深く考えていなかったと気づかされました。この言葉から、ただアイデアを並べるだけではなく、高校生の視点や実際に訪れるお客様の視点を大切にすることが必要だと感じました。

そこで、私たちしかできない取り組みとして、SNSでハッシュタグを活用しデンパークの認知度を高める案や、交通手段のバックの提案など、より具体的な内容に修正しました。訪問先の藤原さんからは「高校生らしい新しい発想で良い」と共感していただき、大きな励みになりました。

訪問前はデンパークについて十分に理解できておらず不安もありましたが、実際に足を運び、働く方々の熱意に触れたことで、現場を知る大切さを実感しました。実際に行ってみないと分からないことが多く、今後の活動でも「行ってみたい」と思ってもらえる工夫を広めていきたいです。今回の経験を通して、社会の一員として現場を知り、お客様の視点で考える姿勢を身につけることができました。この学びをこれからの生活にも生かしていきたいです。

生徒会活動報告

後期生徒会メンバー紹介



2025年度後期生徒会は、「Libra(リブラ)」という方針のもと、日々活動を行っています。

一億円募金活動やペットボトルキャップ回収、校則改善に向けた取り組みをはじめ、能登半島地震のボランティア活動、正門での交通安全の呼びかけ、選挙啓発運動など、学校内外で幅広い活動に取り組んできました。

これらの活動を通して、生徒一人ひとりが社会や身の回りの課題に目を向け、主体的に行動することを大切にしています。私たち生徒会は、全校生徒とともに生徒会活動をより良いものにしていきたいと考えています。今後は、卒業フェスティバルや新入生歓迎会の成功に向けて取り組んでいきます。

今後とも、生徒会活動へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

会長	2年	織田	紗穂	(新川)
副会長	2年	松川	莉子	(安祥)
書記	1年	小嶋	琉楓	(蒲郡)
書記	1年	川上	寧心	(大府南)

会計	1年	牧野	紗季	(大府北)
会計	1年	西村	希風	(大府北)
渉外	2年	松井	幸菜	(幸田北部)
渉外	2年	大徳	進太郎	(安城南)

教科セミナー報告

日本史セミナー



普通科1年12組 黒部 琴里(吉良)

私は日本史セミナーに参加して久しぶりに京都に行きました。小学生ぶりに見た金閣寺はより迫力を感じました。歴史を学んでから行けたことで新しい気付きや、知りたかった事のお話が聞けて楽しかったです。京都ならではの景観や建物を見ている時、普段では感じられない世界観に浸れました。ホテルで過ごす時は、その日体験した話を友達と話し合ったり次の日の回るルートを決めたりお土産を一緒に見て回るなど、より仲を深める事も出来ました。多くの歴史に実際に触れる事で沢山の事を学べていい経験になりました。日本史セミナーを含めた沢山のセミナーに来年も参加しようと思いました。

部活動Report

2025年10月～2026年2月

陸上競技部

滋賀インターハイ優勝を目指して

2年7組 権田 颯志(翔南)

今年度は最大の目標としていた広島インターハイで12位と入賞できず、その悔しさを原動力に「絶対に満足のいく走りをする」と練習を続けてきました。その結果、秋には3回の全国大会で入賞し、10月に行われたU18日本選手権では準優勝することはできました。しかし、まだ目標の順位、タイムは出せないことが多く、悔しさを感じた1年になったと感じています。来シーズンは、滋賀インターハイで優勝し、お世話になった方々に良い報告ができるように努力を続けていきたいです。



U18日本選手権 男子走高跳 優勝

2年6組 石川 大介(平坂)



10月に行われたU18日本選手権男子走高跳で優勝することができました。私はこれまで諦めないこと、仲間を存在をとて大切にしてきました。今年は少し伸び悩む時期もありましたが、仲間が自己ベストを更新する姿に刺激をもらい、応援を力に諦めずに練習して

これしました。優勝した試合の当日は、最初の高さでミスをして焦る試合展開となりましたが、仲間の応援のおかげで流れを取り戻し、自己ベストを出して優勝することができました。来年は高校最後のシーズンのため、インターハイで応援してくれる仲間や指導して下さる先生方のためにも優勝して恩返しができるように頑張ります。応援よろしくお願いします。

駅伝から学んだもの

3年5組 城川 美佳(高浜)

私は1年生の頃、駅伝の補欠メンバーにも選ばれず、初めて高校駅伝を走ったのは2年生の東海駅伝でした。そして3年生となった今年、念願であった駅伝と東海駅伝の両方を走ることができました。この3年間で、私自身の考え方は大きく変わりました。



これまでは「自分にはできない」と決めつけてしまうことが多くありました。しかし、目の前の課題に向き合いながら努力を重ねる中で、少しずつ前向きに物事を捉えられるようになりました。

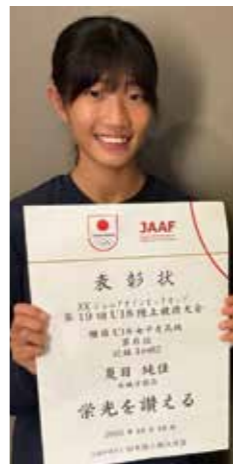
県駅伝では思うような走りができず、悔しい思いをしました。その経験から、東海駅伝では同じ走りを繰り返してしまうのではないかと不安を抱えたまま、スタートラインに立ちました。そんな時、同級生であるキャプテンから「楽しんで走ってこい」と声を掛けてもらい、自信と走る楽しさを思い出すことができました。

駅伝は、仲間の言葉や想いが大きな力になる競技だと思います。今度は後輩たちにこの想いを受け継ぎ、仲間とともに再び全国高校駅伝という大きな舞台へ挑戦してほしいです。

3種目でインターハイへ

商業科2年2組 夏目 純佳(矢作北)

10月に行われたU18日本選手権で6位入賞することができました。当日は、周りには強い選手ばかりで自分よりも自己ベストが高い選手が多く、不安と緊張でいっぱいでした。しかし、絶対に入賞するという強い気持ちと仲間の応援が力になり、思い切って跳躍することができました。この結果は満足いくものではありませんが、全国の舞台で入賞できたことはとても自信になりました。今後は支えてくれた仲間や指導して下さる先生方への感謝を忘れずに来年のインターハイでは七種競技、走高跳、三段跳の3種目で出場、入賞することを目標にこれからも練習に取り組んでいきます。



卓球部

あと1勝

2年8組 矢野 沙樹(前林)

卓球部は西三河大会で優勝、県大会で4位になり12月に静岡県富士市で開催された東海大会への出場権を獲得できました。全国大会出場を目指して挑みましたが、結果は8位。昨年よりは良い結果になりましたが「あと1勝」の重みを痛感する内容でした。最後のインターハイ予選では、悔いの残らないように日々支えて下さる方々に感謝の心を持ち卓球に全力で取り組みたいと思います。これからも応援をよろしくお願いします。



女子サッカー一部

高校選手権県大会 第3位

2年4組 小川 真欧(竜神)

安城学園女子サッカー部にとって、今年の選手権大会は、まさに全員で戦い抜いた2ヶ月間でした。格上である東海リーグ所属のチームに挑んだ準々決勝です。前半の劣勢を耐え抜き、ハーフタイムにはお互いに選手同士で修正点を言語化して気持ちを切り替えてピッチへ。後半早々、シュートがこぼれたところに反応して決めた先制点。GKを中心とした粘り強い守備で守り抜き、1-0で勝利。あの瞬間の喜びと達成感は一生涯忘れることのできない宝物です。しかし、その後の準決勝、そして順位決定戦は満身創痍の戦いとなりました。準々決勝で負傷者が出て厳しい状況下でも、キャプテン、副キャプテンを中心に「全力を出し切る。」と最後まで戦術を練り、ピッチに立つ姿に、私たちは最上級生の覚悟を見ました。執念のゴール、そしてすぐにボールを拾いに行った先輩の姿は、私たちの胸に深く刻まれています。今までの先輩方と感じた、喜びや悔しさなどを胸にこれからも日々頑張っていきたいと思えます。



3年生へ

2年5組 石川 真菜(安城南)

10月25日の愛知県高等学校女子サッカー選手権大会を最後に、3年生は引退となりました。2年間一緒にプレーしてきた3年生には感謝しかありません。練習がきつくて心が折れそうな時も、試合で思うような結果が出なかった時も、3年生が最後まで諦めずにボールを追いかける姿を見て自分達も「頑張るぞ、諦めるな」と思うことができました。同じピッチに立って、同じユニホームを着て、同じ目標に向かって戦えたことは私達の忘れられない最高の思い出です。試合に勝ってみんなで流した嬉し涙も、試合に負けて流した悔し涙も今の3年生とてしか味わえない経験でした。当たり前のようにずっと隣や前を走っていた先輩方がもう一緒にピッチに立てないと思うと、今でも実感がわきません。ですがもう自分達が引張っていく最上級生になりました。先輩方の残してくれた想いと先輩方と約束した目標を忘れずにこれからもチーム全員で部活に励んでいきます。今まで本当にありがとうございました。

男子サッカー一部

令和7年度高円宮U-18愛知県サッカーリーグ県4部リーグ

3年11組 那須 優斗(刈谷南)

昨年、高円宮U-18愛知県サッカーリーグで地区リーグから県リーグに昇格しました。監督が掲げるangaku styleでの挑戦でした。県リーグは地区リーグと違い、「勝つためのサッカー」に徹するチームが多くなります。それでも、ドリブルとショートパスでスモールスペースから打開していき、勝ち点を積み重ねました。初年度昇格とはなりませんでしたが、残留することは出来たので、この続きは後輩に託します。これからも安城学園高校男子サッカー部を応援してください。最後に、僕ら3年生が最後までやり切ることができたのは、応援してくれた家族のおかげでもあります。3年間、ありがとうございました。



ブロッコリー収穫体験から食物の流通を学ぶ

今回の収穫体験を通し、普段何気なく食べている野菜に込められた多くの想いを知ることができました。卒業生の先輩から、収穫後の鮮度管理の難しさや天候に左右される農家の苦労を伺い、一つの食材が食卓に届くまでの道のりの重さを実感しました。今回はブロッコリーの収穫体験をしましたが、ブロッコリーだけでなくトマトやオクラも作っていると聞き、農家がどのように収入を得ているのかも学ぶことができました。収穫した野菜は少しもらうことが出来て、美味しくいただきました。また、顧問の先生が仰った「地域との繋がりに」についても考えさせられました。地元の作物を知り、その発展を願うことは、僕たちが応援されるチームになるためにも大切な視点だと感じます。人と人の繋がりがあからこそ、試合や遠征、合宿が成り立っている、人と人の繋がりを大事にし、チームとして強くなっていきたいと思えます。この経験を糧に、食事への感謝を忘れず、食を通して地域と繋がれるような活動を大切にしていきたいです。

2年9組 高橋 勇汰(高浜南)



ソフトボール部

目標は、全国大会で勝つこと

2年4組 矢田 千尋(矢作)

私たちの目標は、全国大会で勝つことです。そのために、今は、特に守備を中心倒して、基礎から一つ一つ丁寧に練習に取り組んでいます。ミスを減らし、どんな場面でも安定したプレーができるように努力しています。これから新入生を迎えるので、先輩として良い手本になれるように、声掛けやチームワークを大切にしていきたいです。全員で力を合わせて頑張ります。



ハンドボール部

ご卒業おめでとうございます

2年3組 石川 唯(安城西)

ご卒業おめでとうございます。

先輩方は未熟な私達に沢山の教えられるほど色々なことを教えてくださいました。それは誰でもいいというわけではありません。今の先輩方が教えてくださったから今の私達がいます。まだまだ先輩方の様な素敵な人まで到達していませんが、いつかそまてなれるように先輩方が卒業後も必死に頑張ります。このご恩と、溢れるほどの先輩方との沢山の楽しかった思い出、大変だった思い出は絶対に忘れません。私たちが入学してから先輩方と過ごした二年間あつという間でした。毎日がとても楽しかったからあつという間に感じました。卒業してからもどうか楽しく笑顔でお過ごしください。改めまして、ご卒業おめでとうございます。



女子バスケットボール部

最後の一年

2年13組 吉田 爽乃(広陵)

今年1年間は、3年生のいない中、私達2年生が最上級生として、多くの貴重な経験を積む事ができました。

12月のウインターカップ予選では、1,2年生チームで挑みましたが、全国まであと一歩届かず悔しい結果となりました。

私達2年生は、いよいよ最後の一年となります。今まで培ってきた経験と悔しさを力に変え、日々応援してくださっている皆様へ恩返しできるよう今よりも高みを目指し、チーム一丸となって頑張っていきますので、応援よろしくお願ひします。



男子バスケットボール部

「負けたことがある」というのが、いつか大きな財産になる

3年11組 青山 佳弘(南陽)



自分たちは過去の先輩方と比べて、なかなか結果を残せなかった学年でした。新人戦で西三河は優勝したものの県大会では6位、インハイ予選では二回戦敗退という悔しい結果でした。主将が中心となっ

てチームを牽引していた中で試合中に大怪我をしてしまい、絶望感がとてもありました。それでも、最後の大会に向けて自分がチームを引っ張ろうと思ひ、厳しい練習や指導に耐えてきました。思うようなプレーができずチームメイトに強く当たってしまうこともあり言い合いになる事もありました。それでも自分の事を信じてついてきてくれる仲間たちはほんとに最高のチームメイトでした。最後の大会も三回戦敗退となってしまいましたが、今までが一番楽しく熱くなり盛り上がった大会になりました。その結果に後悔はありません。指導していただいた先生やコーチの方、応援していただいた保護者の方々やOBの方々、遅々足を運んでくれた皆様、本当にありがとうございました。これからも男子バスケットボール部へのご声援をよろしくお願ひします。



ダンス部

合同自主公演を通して

2年10組 木原 沙綾(知立)

今回の合同自主公演は、愛知県内の17校が集まって行われました。最初から最後まで本当に刺激の多い時間でした。学校ごとにダンスのジャンルや雰囲気、作品に込めている想いが全く違って、同じ「ダンス」でもこんなに表現の幅があるんだと改めて感じました。

普段なかなか関わることのない他校のダンス部と同じ舞台をつくり上げることで、新しい視点や学びを得ることができ、自分たちのダンスを見つめ直す良い機会にもなりました。この経験を通して得た刺激やつながりを、今後の活動にも生かしていきたいと思います。

3月には全国大会が控えているので学んだことを活かして良い結果を残せるよう頑張ります。

これからもダンス部の応援よろしくをお願いします。



USA Regionals 2026 全国大会出場

2年11組 浅井 春奈(福岡)

1月に参加したUSA Regionals 愛知大会で全国大会への出場権を獲得しました。

全て自分たちで一から作り上げる事はとても難しく苦戦する部分も多かったですが、全員が全国出場という目標に向かって一致団結して日々練習に取り組むことができました。

1年生にとっては初めての大会で自分たちで作品を作り上げることの難しさを学んだと思います。2年生は自分たちの代になってすぐの大会であったこともあり話し合いができていない中で思うように練習ができないこともありました。安学からは2チームが全国大会に出場することができ、とても嬉しく思います。

今回の結果に満足することなく、全国大会ではより完成度の大会作品を踊ることができるようにこれからも頑張っていきたいです。

いつもダンス部の応援をいただきありがとうございます。これからもよろしくをお願いします。



インターアクトボランティア部

部活動での経験を通して

約二年半のボランティア活動を通して、私は多くの大切な経験を積むことができました。安城駅の飾り付けでは、見てくれる人を楽しんでもらえるよう、前回よりもよい作品を作ろうと、仲間と話し合いながら工夫しました。難しい折り方に挑戦することもありましたが、駅を行き交う人たちが「すごい」と感じてくれるよう、一つ一つ丁寧に取り組みました。

また、安城七夕まつりなどの地域の行事では、子どもとの接し方や、お年寄り、外国の方への手助けを通して、相手のことを考えた行動や、わかりやすく伝える力が必要だと感じました。これらの活動を通して、周りの様子に気づいて自分から行動することが、人に喜んでもらえることにつながると学びました。もともと人の役に立つことが好きな私にとって、部活動での一つ一つの経験は、とても充実したものでした。

インターアクトボランティア部では、行事のお手伝いだけでなく、児童虐待防止の呼びかけや、ポリオワクチン支援、あしなが奨学金募金活動、国際交流、リーダー研修など、さまざまな社会問題改善や社会貢献活動に取り組んできました。これらを通して、まだ知らないことがたくさんあると気づくと同時に、多くの人と出会い、新しい知識を学ぶことができました。この二年半で、自分自身が大きく成長できたと感じています。自分の行動で人に感謝され、私自身も笑顔になれる場面が多くありました。人とのつながりの大切さや、周りを見て動く力、誰かのために行動する喜びを学べたことは、私にとって大きな財産です。この経験を生かし、これからの学生生活でも人とのつながりを大切に、周りから信頼される大人になりたいです。



3年2組 高柳 咲那(安城南)

吹奏楽部

「碧南親子ふれあいコンサート」に参加して

3年12組 天野 未来(碧南南)

12月13日に碧南市文化会館にて行われた碧南親子ふれあいコンサートに今年もお招き頂きました。碧南市の小中学生の明るさに私たちもとても楽しませてもらうことができました。碧南市内の中学生や碧南市民吹奏楽団の方々と演奏した合同ステージでは、様々な世代の音楽が集まり世代を超えた演奏を感じることができました。



「愛知県アンサンブルコンテスト」にて金賞・第1位「愛知県教育委員会賞」を受賞

3年11組 山崎 悠進(六ツ美)



1月24日(土)に瀬戸市文化センターで行われた愛知県アンサンブルコンテストにおいて、打楽器七重奏、金管八重奏、木管八重奏が金賞を受賞し、打楽器七重奏、金管八重奏は2月15日(日)に長野県松本市キッセイ文化ホールで行われる東海アンサンブルコンテストの愛知県代表として推薦していただきました。また、打楽器七重奏は1位である「愛知県教育委員会賞」を受賞しました。

音楽と真剣に向き合っていくことの難しさを感じつつも、全国への大きな目標に向かっていく仲間と日々一緒にいることの喜びを実感しています。日々応援して下さる方々、学校の教室等を貸して下さるみなさん、指導していただく先生方、日々切磋琢磨していく仲間感謝し、夢である2年連続の全国大会を目指して頑張ります。応援よろしくをお願いします。

「中部日本個人重奏コンクール」西三南地区大会にて重奏4団体金賞・3団体は同点1位を受賞

2年8組 豊田 奈央(犬山東部)

2月1日(日)に西尾市文化会館で行われた中部日本個人・重奏コンテスト地区大会において、ソロ部門でチューバ独奏2人とコントラバス独奏が銀賞を受賞。重奏部門で打楽器五重奏、金管八重奏、木管八重奏、バリ・チューバ四重奏が金賞を受賞しました。打楽器五重奏、金管八重奏、木管八重奏は3月8日(日)に瀬戸市文化センターで行われる中部日本個人・重奏コンテスト愛知県大会の西三南地区代表として推薦していただきました。3年生のいない初めての大会で1、2年生だけで協力しあい、先生方や3年生にも教えていただきながら大会に挑むことができました。日々応援して下さる方々、学校の教室等を貸して下さるみなさん、指導していただく先生方、支えて下さる3年生、日々切磋琢磨していく仲間感謝し、本大会出場を目指し更に頑張ります。応援よろしくをお願いします。



箏曲部

箏曲部で活動した時間がかげがえない宝物。箏曲部で仲間の存在の大切さを学びました♪



3年12組 榊原 実紅(安城北)

箏曲部は、12月27日に第8回定期演奏会を開催しました。私たち3年生はこの演奏会で引退ということで、今まで部活動を通して出会った人に感謝の気持ちを込めて演奏しました。多くの方に足を運んでいただき、「名探偵 Conan・メイnteマ」などポップスから「螺鈿(らでん)」という古典的な曲まで演奏し、箏の音色を楽しんでいただきました。今年は、私が3年間活動してきた一番部員が多い定期演奏会となったので、今まで以上に迫力の感じられる演奏をすることができたと思います。

私は、部活動で仲間の存在の大切さを学びました。箏は一人で弾く音もきれいですが、部活動で仲間とパートに分かれて合奏することで幅広い曲を楽しむことができたと思います。また、ここまで続けてこられたのは楽しかったときも、辛かったときも一緒に頑張った仲間の存在があったからだと思います。そして、初心者だった私たちに優しく教えてくださった技術指導の野津先生、顧問の先生方、家族、友人が支えてくださったお蔭です。箏曲部として活動してきた時間はかけがえない宝物です。今までありがとうございました。

美術部

2026招福祈願、地域の皆様へ感謝を込めて大絵馬奉納

3年4組 宮本 稜奈(一色)

3年2組 栗原 わかな(安城西)

美術部では、今年もお隣の南明治八幡社様より、新年の初詣に合わせて奉納する大絵馬制作のご依頼をいただきました。幅180cmの大絵馬には、草原を力強く駆ける二頭の馬を描きました。12月初旬から制作を始め、全体のバランスを考えながら修正と加筆を重ね、神社の宮司さんや安城市の皆さんに喜んでいただける作品となるよう、心を込めて取り組みました。普段は各自が自由なテーマで制作を行っている美術部にとって、依頼を受けて作品を完成させる経験はとても新鮮なものでした。制作は決して容易ではありませんでしたが、自分たちの好きなことや特技を通して地域貢献ができたことを、大変うれしく感じています。

